

## 令和6年度事業報告書

(令和6年4月1日から令和7年3月31日)

### (1) 特定非営利活動に係る事業

#### 1. 子どもや親自身の生活に関する情報を集約・発信するための活動

ア フリーペーパー発行事業 vol. 68～71 8,500部×4回

##### 【各号内容】

NO. 68 (春号) : 表紙8人。特集「命を守るラジオ」: 災害が起きた時の対応など県内6局のラジオ局を紹介。おしえてプロフェッショナル「こども医療～イザという時、どう対処したらよい?」として、大江整形外科、近藤先生(前編)。広告1/4、2社・1/8、7社。国際交流ベトナム(ベトナム人協会)。みやまパシアター。コラム3本。

NO. 69 (夏号) : 表紙9人。特集「今、都城が熱い!」: 都城に様々なスポットがオープンする中みやまパ流の観点で3ヶ所紹介。おしえてプロフェッショナル「こどもの急な体調不良、対処の仕方」として大江整形外科、近藤先生(後編)。広告1/4、2社・1/8、8社。国際交流ネパール(ナマステダイニング)。みやまパシアター・音楽会。コラム2本。※裏面に都城市の保育士就職支援広告(全面)。

NO. 70 (秋号) : 表紙8人。特集「初めてのキャンプ!」: 本格シーズンに初めて体験オススメの県内オートキャンプ場3ヶ所紹介。おしえてプロフェッショナル「防災士じゅんこさんのトイレの備え」。広告1/4、2社・1/8、8社。国際交流M HUB(外国人インフォメーションセンター)。みやまパシアター・音楽会。PICK UP「BASE101」紹介。コラム3本。※みやざき子育て応援フェスティバル告知。木下大サーカス広告。

NO. 71 (冬号) : 表紙8人。特集「こどもの成長記念日」: わらべ監修でお節句特集。(前編)。おしえてプロフェッショナル「プロの薬剤師さんが教える お薬の選び方」プロフェッショナルファーマーズ角田さつきさん(前編)。広告1/4、2社・1/8、9社。国際交流AFS日本協会よりホームステイ受入。みやまパシアター・音楽会。※スタッフ募集。

##### 【特記事項】

体制一新からの一年間。主に編集長の関連より特集等企画は比較的早く決定し準備期間に入れるようになったとは思いますが。

しかしながら部員多忙につき日程調整が難しく、諸事情により原稿遅延の事態が続き、発行日がずれ込むことがしばしばあり、秋号、冬号は一月遅れの発送となりました。

これによりみやまパシアターの告知初回に間に合わない等の事態があり、以後、発送日を一月ずらす(3・6・9・12月→4・7・10・1月)方向で繁忙期を避けたスケジュール調整していく。呼

称も春号・夏号から季節感演出の為変更する（立春号、新緑号、盛夏号、木枯らし号）方向。

また、デザイナーが交代になり、新年度に当たる新緑号（4月末発行予定）より新しい方になりました。

みやまパ音楽会が新たに始動した一方で、①シアターとそれぞれ告知即満員という状態が続き、一見有難くも同じ顔ぶれで抑えられ、新しい希望者が申し込めていない。②多忙なスタッフが多く負担が一部に偏り、加えて日程調整も難しい。③オススメ広告・配布先の拡大が成されていない。等の課題も散見される為、スタッフ募集を今後掲載枠を増やしてアピールに努めていく方向です。

## 2. 会員の自主的な活動の援助・育成

### ア みやまパシアター事業

場所：ドリームブロッサム ショールーム

講師：田所 絵美氏 時間：10時半～12時

参加人数：132名（66組）

（6/14 4組、7/19 9組、8/9 3組、9/20 5組、10/18 6組、11/15 6組、12/20 5組、1/17 6組、2/14 3組、3/7 7組、4/18 6組、5/9 6組）

- ・シアター内容の後半に助産師を交えた相談時間を設けており、悩みや不安を話す参加者が多い。悩みの対象は、参加しているお子さんのことがほとんどである。悩みの内容は、離乳食・ねんね・発達・母乳やミルクの回数や量・卒乳断乳についてが多い。助産師や参加している他のママから意見やアドバイスをもらうことで、表情が和らぎ、安心される方が多い。アドバイスをもとに挑戦し、問題が解決したと笑顔で報告を受けることもある。ささいな悩みや不安などを表出し、情報や意見交換の場としても役立っていると思われる。

### イ みやまパ音楽会事業

場所：ドリームブロッサム ショールーム

講師：平野 美穂氏、衛藤 和洋氏、田中 祥歩氏 時間：10時半～11時半

参加人数：114名（57組）

（平野先生 7/29 8組、10/21 6組、1/20 6組、4/21 7組、衛藤先生 8/26 5組、11/18 4組、2/17 5組、田中先生 9/30 5組、12/23 6組、3/17 5組）

- ・講師によって演奏楽器が異なり、それぞれの講師のカラーも加わり、どの会も参加者から好評の声を聞くことが多い。
- ・親子で音に触れ合う時間は、親子共に心穏やかに過ごす時間となっている。音を全身に浴びることは、音に癒される時間に繋がっていると感じる。
- ・ドラムやチェロなど普段は触れる機会が難しい楽器を演奏体験する時間もあり、本物の楽器や音に触れる貴重な機会になっている。

ウ 助産師による相談事業

・助産師講座事業

- ① 2024. 7. 18(木) 10:00~11:30 放課後デイサービス 寺子屋 MOMO 参加者：女性職員 5名  
テーマ 職員向けの研修「女のたしなみ講座～デリケートゾーンケア～」
- ② 2024. 9. 11(水) 14:00~16:00 放課後デイサービス 寺子屋 MOMO 参加者：学生 5名、高校生 4名  
テーマ 「大人へ変化する自分の体を知ろう」
- ③ 2024. 9. 20 (金) 14:00~16:00 放課後デイサービス 寺子屋 MOMO 参加者：小学生 8名  
テーマ 「じぶんのからだをしろう！」

・ありの papa 講座時にコンドーム配布

・公式ラインでの相談 1件

・宮崎災害支援 足湯カフェ

9月13日 10時から1名 11時から1名 合計2名

エ 父親の育児支援事業「ありの papa」

- ・フリーペーパー「みやまパ」にて、パパサロンの紹介や、子どもとの思いで話などのコラムの掲載を行った。
- ・「パパサロン」の開催

場所：宮崎市小戸地域子育て支援センター

実施日	参加者	内容
7/28 (土)	小川、長友	NASA ゲーム、
10/22 (土)	小川、上口	万華鏡工作、カードゲーム
1/20 (日)	木村、長友	読み聞かせ、牛乳箱で車の工作

7月18日：工作をせずに、お父さん同士の交流がメインのカードゲームやボードゲームを行なった。工作がメインではなかったことで、よりお父さん同士の話しやすい雰囲気が出ていた。

10月22日：親子で楽しめて、家に帰ってもママと楽しめるような工作を行った。作った作品を、お互い紹介し合い、遊びながらパパと子どもたちだけでなく、パパ同士も和気あいあいと会話が進んだ。

1月20日：牛乳箱を使った車の工作を行った。身近な牛乳箱を工作材料にすることで、帰ってから楽しめる工夫ができた。

- ・パパ料理教室「パパチキ」

実施日：12月15日（日） 場所：宮崎友の家

パパ同士の交流を目的に、子供向け英会話団体のパパたちに呼びかけ、クリスマスに向けた唐揚げ料理教室を行った。当日は4名のパパが集まり、調理を通して交流を深めることができた。

### 3. 子育て・親育て・まちづくりなどに関する諸団体・企業との連携、ネットワーク作り

#### ア 児童虐待防止ネットワーク事業

- ・宮崎子育てネット（児童虐待防止ネットワーク）

虐待防止研修及び体罰によらない子育て 黒木 6回 二見 7回

#### イ 子育てネットワークみやざき（未来みやざき子育て応援フェスティバル実行委員会）

実行委員として参加

#### ウ みやざき子ども未来ネットワーク

事務局 黒木 監事 二見

### 4. その他（委託事業・補助事業・委嘱委員・団体に関する事）

#### ア 宮崎市

- ・宮崎市子ども食堂ネットワーク応援業務

##### 【事業実施内容】

実施団体：支え合いの地域づくりネットワーク

構成団体：特定非営利活動法人みやざき子ども文化センター

特定非営利活動法人みやざきママパパ happy

子ども食堂一覧表 47箇所 子ども食堂利用者 20,599名

##### 【総括】

認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえの調査（2024年度）では、全国のこども食堂が昨年度から1,735箇所増え10,867箇所となり、全国の公立中学校と義務教育学校の数を合わせた9,265箇所を超える結果となった。

当団体の調査では、宮崎市において2025年3月現在で48箇所の子ども食堂があり、ボランティアスタッフの参加数3,451名・利用者数20,599名（※どちらも延べ）と、年々関わる人々が増え続け地域の居場所として確立されました。地域の居場所となった子ども食堂は、地域の大人が子どもたちのために開設するため、大人の視点でつくられる居場所は子どもが求める居場所のあり方とのギャップが生じやすいことがあり、子どもの声を聴きながら進めることが重要になると感じた。

また、今年度は宮崎県では災害が多く、被害のあった子ども食堂もありましたが、休止せずに、スタッフで支え合いながら開催し、コロナ禍でもつながりつづけることを続けてきた力が運営者の皆様にしっかりと備わっていたと実感した。

## ・宮崎市ワークライフバランス推進事業業務

### 【総括】

現在のワークライフバランスは、従来の働き方とは異なり、多様な価値観やライフスタイルを尊重する傾向がある。コロナ禍を契機にリモートワークが広がり、出社と在宅のハイブリッド勤務やフレックスタイム制度の導入により、個人のライフスタイルに合わせた働き方が可能になってきた。

また、育児・介護との両立を支援する制度（例：男性の育休取得推進、短時間勤務制度）が拡充し、企業の福利厚生として、保育補助や在宅勤務手当がする企業も多い。働き方より働きがい重視する人も多くなり、単なる労働時間の短縮ではなく、仕事のやりがいや自己実現を重視する風潮が見える。

そして、福島県の視察での事例でもあったように、「仕事のための人生」ではなく、「人生の中の仕事」という考え方が広まりつつありライフワークとライスワークをはっきりと分ける若者も増えてきた。だが、宮崎市の企業が令和のワークライフバランスの推進にコミットできているかという疑問は残る。特に一番多い中小企業では、昭和時代の風潮が根強く残り、それが社風だと宣言する企業も少なくない。

これからのワークライフバランスは、単なる労働時間の調整ではなく、働き方そのものを見直し、個人（パーソナル）の生き方を尊重する方向へと進んでいく必要がある。

最後に、2030年ゴールのSDGsの時代を経て、次はウェルビーイング経営（従業員の幸福度向上を重視する経営手法）を導入する企業が増加してくると推測する。

## ウ 委嘱委員

委員会名	委嘱者名	備考
宮崎広域連携推進協議会専門部会 宮崎市総合計画推進会議専門部会	黒木	宮崎市企画財政部企画政策課
宮崎市市営住宅入居者選考委員	黒木	宮崎市住宅課

## エ 理事会

毎月1回開催。理事の負担軽減のためオンラインでの開催を行った。

### 総括

今年度は、団体の健全な運営と体制に注力し、理事をはじめスタッフの役割分担を行い責任の所在も明確にして運営を行った結果、各担当者が責任を持ち自ら考え運営に当たることで、当団体のミッションや目標を理解して活動する事ができた。その思いは、フリーペーパーの読者や講座の参加にも伝わり、励ましの声をいただくことがあった。

また、今年度は多くの災害に見舞われ、初めて災害支援にも取り組み、今後の活動において、防災のみならず災害支援も視野にいれながら活動していきたい。

今後も引き続き、安心して子育てできる地域社会の実現を目指し、継続的な取り組みをしていく。